⑪ 目指せ、生産性ボトムアップ

病気を言い訳にしない飼養管理 PART.1

伊藤　貢　㈲あかばね動物クリニック

2006年はPRRSやサーコウイルス2型などがクローズアップされた年でした。その一方で事故率を病原体のせいにせず、基本的な管理を見直すことで、成績の向上が見込まれる事例もあります。

事故率別の対処法、従業員への対応について、数回に分けて考えていきます。

『PRRSによって事故率が上がり、出荷頭数が伸びない』という話を、昨年はよく耳にしました。驚いたのは、養豚生産者でない、別の業界の人からも言われたことです。PRRSという言葉が広く一般に浸透していることを肌で感じた1年でした。全国的にPRRSの被害が大きくなっていることを重く見た国が、ようやく腰を上げました。㈱動物衛生研究所が主体となって、日本におけるPRRSウイルスの実態とその対応策を考える事業が始まりました。いくつかの特定の農場を定期的に調査することによって、ウイルスの変異を確認します。それとともに、撲滅は可能か、コントロールはどうするのか、別の病原体との関連などを本格的に調査します。結果が出るのはもう少し先になりますが、日本でもPRRSの撲滅に向けた大きな1歩が踏み出されました。今後の報告が楽しみです。

もう1つよく耳にした話題は、『サーコウイルスが暴れている』ということです。今までは、サーコについて、2次的要因として取り扱われている場合が多かったようです。ここにきて豚サーコウイルス2型感染症（本文中ではサーコと表現します）による被害が急激に増えているという話が聞こえてきました。サーコが急に暴れ出した？　とは少しおかしいようにも感じますが、ここにきて騒がれているのには、それなりに理由があります。2005～06年にフランス、ドイツ、デンマーク、カナダ、アメリカでサーコワクチンが特別暫定許可という条件付きで使用が許可され始めました。その結果が日本に紹介されるようになり、効果の高さに関係者は期待を寄せているということが1つあります。

もう1つの理由としては、カナダで2004年にサーコによる被害が報告され、アメリカにも飛び火して問題になっているということがあります。それが今までにない事故率であるため、サーコが注目され始めました。

もともと広く知られていた病原体で、アメリカでも研究はされていましたが、ここにきてサーコによる被害が大きくなったため、一変してサーコについて騒がれるようになりました。アメリカで被害が出れば当然日本もということで、注目されるようになったと思います。これまではPRRSが問題と言っていましたが、今は、事故率の原因が分からなければサーコを疑うようになった？！　ということでしょうか。あまりの変わり身の早さに驚くばかりですが、恐らく日本でもワクチンが使われ始めるでしょうから、そのときにある程度分かると思います。

新しいワクチンに期待することは良いことですが、すべて解決されるわけではないと思います。昨年フランスの農場で農場主の奥さんが言ったことが思い出されます。その農場は8年前、事故率15％以上で苦慮していました。呼吸器系の疾患で苦しめられ、サーコによる被害がとくに大きかったそうです（ヨーロッパでは昔から関与が指摘されPRRSよりも重要視されていました）。

そこで実施した対策は、①豚舎の建て替え、②オールイン・オールアウト、洗浄、乾燥、消毒、空舎の徹底、③マードックの20ヶ条を実施、④血液にピエトレン種を導入、⑤ワクチンの使用、を実施した結果、現在は離乳舎事故率1.4％、その後の事故率は2.6％になりました。マードックの20ヶ条の詳細は他書に譲りますが、概略としては各豚舎についてそれぞれ管理する項目があります。主にはオールイン・オールアウトの実施や、洗浄、乾燥、消毒、空舎を徹底的に行うこと、豚の移動法などについて、基本的な飼養基準が述べられています。

常に新しいワクチンへの期待は大きいと思いますが、やは

り基本が重要であることを教えられた気がしました。

病気を増悪させる要因とは

少し視点を変えて、病気を増悪させる要因は何かについて、宮崎共済連の有川先生が行われた興味深い調査結果があるので紹介します。コンサルしている15農場（1農場だけPRRS陰性）において、事故率と関係がある要因を調べました。

調査項目は、母豚頭数、60～90日齢での飼養密度、空間飼養密度、冬場の温度管理、洗浄消毒、給餌器の設置口数、給水器の設置口数、労働充足率の8項目です。**表1**は、その結果です。強い関係があったのは、冬場の温度管理、給水器の設置口数、労働充足率でした。関係があったのは、空間飼養密度、洗浄消毒、給餌器の設置頭数でした。関係が見られなかったのは、母豚頭数、60～90日齢の飼養密度でした。

この調査は、これから多くの人たちのデータを加えて分析すれば、管理面での重要なポイントが導き出されるのではないかと期待しています。病原体ばかり見ているとこのようなことを見落としてしまいますが、現場の重要項目として留意してほしいと思います。

ボトムアップと事故率改善

このシリーズはボトムアップということで、「出荷頭数を少しでも多くするためには何をしたらよいか」をテーマに連載してきました。筆者が日ごろ気になったことなどを紹介してきましたが、そろそろ連載も終わりに近づいてきました。病気が出荷頭数を減らす大きな要因であることは分かっていますが、あえて触れませんでした。今回紹介するのは、筆者がコンサルタントを行ううえでポイントとしていることを、事故率別（かなり大雑把）に対策してほしい点について列挙しました。むろん現場では多くの制約要因がありますので、一概には言えないことですが、概略として考え下さい。

事故率別の改善項目

表2では事故率の違いによる優先項目を示しました。

1）3％事故率農場：この状態をこの先10年維持するよう心掛ける

●防疫

3％事故率の農場では、病原体の種類が少なく、農場内に確認されている病原体もコントロールできている状況下にあります。逆に「ない」ことが母豚の免疫がないために無防備である場合もあります。病原体の侵入阻止を絶対の条件としなければ、侵入時の被害は甚大です。母豚規模が大きければ大きいほどその被害は計り知れません。そのため、入ってくるものすべてに注意を払う必要があります。農場の衛生レベルが上がれば上がるほど、防疫には投資が必要になります。

●人の管理

現在の成績を維持するには、従業員のやる気を持続させることと、気持ち良く仕事ができる環境作りが必要です。そのために、明るく綺麗な事務所や休息スペースは、農場内での従業員相互の情報交換の場として必要と考えます。500頭規模前後では、従業員の人数が少ないため、わざわざ事務所を設けていない農場もありますが、重要なことですので、至急対応が必要と考えます。このレベルの農場は経済的にも余裕があると思われるので、人と豚への配慮を行うことが、さらなる成績向上につながると思います。農場に関係ないと思われるバレーボール、ボーリング大会、カラオケなど仕事以外で一緒になって何かをすることは農場内のチームワークを向上させる良い手段です。

2）5％事故率農場：殻を破れない状況を打破しなければ3％以下達成は厳しい

●防疫

農場の防疫について、確実に病原体の侵入を防ぐことは前

表1　事故率に関係する要因

	要因
強く関係する	冬場の温度管理 給水器の設置口数 労働充足率
関係する	空間飼養密度 洗浄乾燥消毒 給餌器の口数
関係ない	母豚頭数 60～90日齢の飼養密度

表2　事故率別の優先項目

事故率	優先項目					
3%	防疫	人の管理				
5%	人の管理	防疫	病気管理			
10%	人の管理	適正体重出荷	種付け、再発の確認	育成豚の種付け	豚管理	病気管理
15%	適正体重出荷	育成豚の種付け	種付け、再発の確認	人の管理	豚管理	病気管理

述したとおりです。

病気の管理については、農場内での病原体で存在するものとしないものを確認しましょう。そして、病原体が動いているステージと豚舎を特定してください。このレベルの農場では、どこかに病原体が隠れていることが多く、常に隙を狙っています。早く見つけ出して、抑えることが重要です。

検査を定期的に実施して、年ごとの同時期の変化をモニターすることも良いことです。最近は検査技術が進歩し、病原体の存在を確認できるPCRや病原体の量が測定できるリアルタイムPCRが可能になったので、既存の検査方法に加えて実施することにより、今まで以上に病原体の動きが分かってきました。

このレベルでの病原体の動きは、ある程度、発生のパターンが決まっていることが多いので、適切な管理、ワクチネーション、抗生剤の投与などを考えながら病気を抑え込みましょう。経営的にも問題はないので、豚のために投資をしてください。

●人の管理

成績についてほぼ満足できていても、もう少し成績を伸ばしたいと思っている農場が多いように思います。しかし、成績、飼養規模、農場内の仕事の流れ、豚舎の充足度、労働充足度、疾病などすべてにバランスがとれていて、何かをするには投資が必要になり、どこから手をつけてよいか悩む状況にあると思います。

また、殻を破れないでいるレベルです。「あと一歩というところで、十分な成績がたたき出せない」と思ったら、人の管理に少し目を向けたらどうでしょうか。

会社に目標がありますか？　会社が進むべき目標を立てて、目標を実行するような、農場内での雰囲気をつくりましょう。目標は会社だけではなく、各人がそれぞれ設定して、それぞれ、随時達成率を確認し合いましょう。その結果はすべての人が見られるようにすることも重要です。ボーナスも良いと思います。お金でも物でも良いです。金額ではありません。「もらった」という達成感を感じることが必要です。

大切なことは目標を達成しようという雰囲気をつくることです。達成したらみんなで喜び、「次は俺だ」と思うようになれば良い農場だと言えます。とても重要なことです。経営者の方は考えてみてください。

【続く】